（別紙1）

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業　教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	子ども食堂晴れるや			
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	関西学院大学		
	活動グループ名	国内ボランティアサークルつなぐ	参加学生等人数	16 人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	総合政策学部　総合政策学科		
	責任者氏名	村瀬義史	連絡先電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	子ども食堂晴れるや		
	代表者氏名	西ユミ子	連絡先電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動目標	尼崎市の貧困・孤食問題を踏まえて。子どもたちの食についての状況を改善することに加えて、学習支援等のサポートも行うことで、子どもたちの居場所を作ることを目的とする。			
活動内容及び実績、評価	○　活動内容・実績 今年度は、学生各自の授業や他地域での子ども食堂立ち上げなどの関係で数回しか活動できなかった。4～3 月の毎週木曜日 15:00～19:00 に「晴れるや」と協働し子ども食堂を開催することを予定していたが、そのうち 4 月、5 月、9 月の計 5 回しか学生が活動に参加できなかった。また、新型コロナウイルスの流行状況をみて急遽お弁当での実施になったり中止したりすることもあった。各回の参加人数は子どもが約 10 人、学生が2～3人だった。学生が子ども食堂に参加し子どもたちとレクリエーションをしたり夕食を食べたりすることで、子どもたちの笑顔が増え、会話の幅も広げられた。また、学習のサポートも実施し、家庭で過ごす時間が有意義なものになるように取り組んだ。このような取組みにおいて、子どもたちに温かい居場所を提供することができたと考える。開催にあたっては、l子ども食堂「晴れるや」の代表者をはじめ、地域の方々からも支援を受けることができた。 参加ごとに、協力してくださる方々や他の大学や高校からの参加者との交流を通じて、我々が提示している目標とそれに対する地域が抱えている現状を学生が理解し、問題への関心をより一層深めることができた。しかし、継続的に参加できなかったことで、子どもたちや地域の方との信頼関係の構築は十分に達成できたとはいえず、居場所づくりにはもっと貢献できる部分が多かった。 今後はさらに子どもや地域の方など、尼崎地域の温かい居場所づくりに貢献できるよう、積極的に子ども食堂に参加し季節のイベントなどで学生独自の視点での活動も行っていきたい。また、「晴れるや」は木曜日以外にもお弁当配布などの活動をされているので、参加を木曜日に限定せず、活動の幅を広げることで、子どもと接する機会を増やしていきたい。 			

	○　市民活動団体「晴れるや」より コロナ禍、「晴れるや」は地域の子どもの状況を把握し、柔軟な対応をしてきた。まだまだ、しんどい思いの子どもたちがいる中、「晴れるや」に繋がって、少しでも、自分らしく居られる場所、笑顔になれる場所であり続けたい。学生が参加されることで、子どもたちは凄く、嬉しいんです、一緒にいるだけで･･･　コロナ禍の様子をみながら、休まず工夫してきたのは、休まず利用する子どもがいるからであり、まず、自分たちがしたい事ではなく、子どもたちに寄り添う事がいちばん大切な事だと、痛感している。 ○　指導教員より 参加できた回数は少なかったものの、参加した学生にはとてもよい経験になった。「やりっぱなし」や「個人の経験」のまま放置せず、活動を通して得たものや問題意識を、団体内でしっかりと分かち合って共同のものにしていってほしい。また、当初の計画のように遂行できなかった点については、そのようになった原因・理由を団体内で反省し、今後のよりよい活動につなげてほしい。

※　報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。

晴れるや
2022年度（令和4年度）報告会

国内ボランティアサークルつなぐ

2023年3月29日

@ZOOM

目次

- 活動目的・目標
- 活動内容
- 成果
- 課題
- 今後の活動

活動目的・目標

尼崎地域における貧困や個食問題から
子どもたちの食についての状況を改善する
ことに加えて、学習支援のサポートや
レクリエーションを行うことで
子どもたちの居場所づくりをする

活動内容

- ４、５、９月の計5回、市民団体「晴れるや」と協働で子ども食堂に参加した。
- 新型コロナウイルスの流行状況によりお弁当での実施になったり中止になったりした
- 参加人数は子ども約10人、学生2～3人
- 子どもたちの宿題をみたり、夕食を食べたり。
- 子どもたちとレクリエーションを行うこともあった

成果

- 子ども食堂に参加することで子どもたちの会話の幅を広げられた。
- 学習サポートを行うことで、家庭での時間を有意義に使えるように取り組めた。
- 地域の方々や他の大学・高校からの参加者と交流できた。

課題

- 参加回数や参加学生がかなり限定的だった。
  ←三田での子ども食堂開始、各自の授業
- 継続的に参加できなかった。
  →子どもたちや地域の方との信頼関係が薄れる
- 夏休みなどの長期休みにもイベントなどを実施できなかった。

今後の活動

- 次年度の活動は未定
- 参加できる学生がいれば、ぜひ継続して活動していく
- 長期休みなどにイベントを開催するなど携わっていきたい。。